

富士市中央公園

## 目次

会長挨拶.....	P2	みどりのおたより	
知事挨拶.....	P3	静岡県環境ふれあい課.....	P16
公益社団法人への移行認定を申請.....	P4	静岡県公園緑地課.....	P16
壁面緑化モデル施設の夏.....	P5	静岡県みかん園芸課.....	P17
東日本大震災 岩手県大槌町は今.....	P8	注士会だより	
造園・緑化へ就労を支援.....	P15	会長挨拶・受験対策講習会開催.....	P18
街の緑を美しく		表彰・お知らせ・協会日誌.....	P19
緑の相談所で助言.....	P15	第4回静岡県景観賞.....	P20
施設の巡回管理指導.....	P15		

## 新年のご挨拶

社団法人静岡県造園緑化協会会長

片桐 利男



新年を迎え謹んで御挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、つつがなく新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

振り返りみますと、昨年は大変な災いの年でありました。多くの人に不安と恐怖を抱かせ、国難とも言える未曾有の大災害となった東日本大震災発生から間もなく十ヶ月が経とうとしております。恐怖の爪痕は未だ消えず、その残骸が散在しており復旧の道のりは長期間に亘るものと思われ、被災地の皆さんの心痛に心よりお見舞いを申し上げます。

また昨年九月に発生した大型台風十二号は、四国方面に上陸し紀伊半島を中心にしてその

周辺に甚大な被害をもたらし、更に追い討ちをかけるように発生した台風十五号は浜松地方に上陸し道路の決壊、河川の氾濫や土砂災害、風倒木、家屋の損傷等その被害は広く県内及び、自然災害の恐ろしさを痛感させられました。

私ども協会も昨年五月に東日本大震災の支援活動の協力に当たり岩手県大槌町に出動し一週間に亘り地元関係機関の方々の指導を頂き瓦礫の撤去作業に従事して参りました。

御参加くださいました会員の皆様に改めて厚くお礼を申し上げます。

この支援活動に対して去る十二月一日に静岡県知事より当協会に感謝状が授与されました。今後も協会の目指す社会貢献に出来る限りの活動を推進して参る所存であります。

私どもの身近にも発生の懸念が指摘されている東海、東南海地震に備え、今回の体験を無駄にすることなく自分の身を守る心構えは勿論のこと、想定外の事態発生となった場合のためにも、常々万全の準備を怠りなくしておくこと

は大切なことと思います。

さて、我々業界を取り巻く環境は以前にも増して一段と厳しい現況下であり、明るい兆しが見えにくい年明けとなりましたが、このような時こそ、緑化の担い手としてエコ対策等環境緑化の大切さを広く社会に訴え、知恵を絞り一致団結して緑豊かな郷土づくりに向けて、この苦難の時を乗り越えて参りたいものです。

今年こそ災害のない平和な年でありますよう願うとともに、今年の干支に因んで会員の皆さんにとりまして昇竜のごとく益々発展されることを祈念致しまして新年のご挨拶と致します。

## 新年のご挨拶

静岡県知事

川勝 平太



明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから、本県の緑あふれる豊かな暮らし環境の創造に御尽力いただき、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

年があらたまり、伊豆を中心に、間もなく桜の便りが届く季節を迎えます。本県は温暖な気候とカワヅザクラをはじめとする早咲きの桜に恵まれ、長い期間にわたって桜を楽しむことができます。数々の桜の名所は全国に誇る観光地であり、また地域の人々の憩いの場として

私たちの生活に深く関わっています。これも、造園業などの専門の技術を有する皆様や地域の皆様が、長い年月にわたって大切に育ててこられた賜物であり、心から敬意を表します。

また今年は、日米友好の象徴であるワシントンDCポトマック河畔の桜を、東京市（現在の東京都）が寄贈してから100周年を迎える記念の年に当たります。

1912年、アメリカのタフト大統領夫人の要望に応じ、当時の尾崎行雄東京市長が桜の苗木を寄贈しました。このとき贈られた苗木は、尾崎市長の依頼で、東京の荒川堤の桜並木から穂木を採り、兵庫県伊丹市でつくられた台木に、本県の清水市興津にあった農事試験場（現在の独立行政法人農業食品産業技術総合研究機構果樹研究所カンキツ興津研究拠点、静岡市清水区興津）で接木育成したものです。ポトマック河畔は今日では世界的に有名な桜の名所となり、毎年3月から4月にかけて桜まつりが開催され、大勢の観光客が訪れます。

100周年を迎える今年は、一層盛大に開催されると伺っています。このように多くの人々を魅しませる桜の苗木が、本県で育成されたことを誇りに思います。

皆様に御支援を賜りました東日本大震災の被災地でも、やがて桜が咲き多くの人々の心を和ませることでしょう。東西を問わずいつの世にあつても、花と緑にあふれる美しい景観は、私たちに潤いと安らぎをもたらし、豊かで質の高い生活を象徴するものです。

県では、県民の皆様や関係団体等の御協力の下、ふじのくにの魅力を高める花と緑のまちづくりを進めています。専門技術を有する協会の皆様におかれましては、どうぞ今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会ますますの御発展と会員の皆様のご活躍を心からお祈りし、新年の御挨拶といたします。

## 公益社団法人への 移行認定を申請

11月2日、整備法第103条の規定に基づき移行認定申請書を電子申請により提出いたしました。

申請書の中の事業内容関係は、平成23年度事業を記載しており、公益性の可否判断の資料となります。提出に至るまでに、静岡県と協議、指導をいたしてまいりましたが、最終的には事業計画の「環境緑化の普及啓発」「環境緑化の推進支援」「公共緑化施設災害復旧支援」「環境緑化の就労支援（4事業費は全体事業費の72%）について公益性は理解頂けたと考えています。

今後は、静岡県での審査となります。申請が多いとのことですが何とか3月までには結果をいただけないかと期待しています。

## 公益社団法人になると

まずは、23年度の総会で承認いただいた定款が新しい定款となります。関連して「入会及び会費納入規程」「役員報酬規程」の一部を変更す

る必要があります。特に入会については条件、資格の記載は無く、協会の趣旨に賛同すれば誰でも入会できることとなります。

また、活動や行事の実施広報を強化していくことが必要ことからホームページを一層充実しなければなりません。しかし、基本的には23年度の事業、活動を変える必要は無く、これまでどおりの活動を続けていけばいいのです。

協会運営について、会長、副会長が法律に基づく代表理事となりますことから、副会長にはこれまで以上に会長補佐を務めていただくよう業務体制の見直し検討を現在進めております。検討の中では委員会業務や多くの参加が得られる技術研修なども課題となっており、3月までにまとめていく予定です。（総務委員会）

## ホームページの充実

ホームページについては、現在のものは拡張性に乏しいことから、新しいホームページ開設を検討しています。大きく一般向けと会員向けの新鮮な情報発信が最も大切と考えています。5月位に立ち上げたいと進め

ていますが、立ち上げ時は、一般向けの「活動情報」「会報」「協会概要」程度で、立ち上げ後「会員専用ページ」や「緑の相談コーナー」など内容の充実を図る計画です。

（啓発労働委員会）

## 社団法人静岡県造園 緑化協会のあゆみ

1982年に社団法人として活動を始め、本年度で丁度30年となります。2012年は新たなスタートの年となります。これまでのあゆみを振り返りました。



2001年しずおか緑・花・祭 庭園出展

- ・1982年 設立、法人認可
- ・1982年 育成管理調査業務受託
- ・1982年 設計業務受託（1978年から）
- ・1982年 樹木寄贈事業開始（1993年まで）
- ・1983年 緑化相談所開始
- ・1984年 移植業務受託（1997年まで）
- ・1984年 「街の樹20選」制作
- ・1987年 「街の樹200選」制作
- ・1987年 JVCにて緑化指導開始
- ・1990年 日春仕活動開始（1995年まで）
- ・1992年 会報「緑の友」創刊
- ・1993年 ドツガー・デンエクスポ33視察
- ・1994年 緑地維持管理コンクール開始
- ・1994年 （2001年まで）
- ・1996年 土壌調査業務受託（2005年まで）
- ・1996年 「緑化木育成管理の手引」制作
- ・1997年 静岡県生涯関係業務受託
- ・1998年 シニア技能講習業務受託
- ・1999年 中国昆明世界園芸博覧会視察
- ・2000年 淡路花博「シャパン」フロア2000視察
- ・2000年 2001しずおか緑・花・祭庭園出展業務受託
- ・2001年 花吹く・井山高原復活業務受託
- ・2001年 （2004年まで）
- ・2001年 「緑の環境づく」制作
- ・2001年 オランダフロリアード
- ・2002年 2002花と緑の祭典視察
- ・2002年 韓国国際花の博覧会視察・出展業務受託
- ・2003年 カナダ国際ワサイカルチャー製作スタッフ派遣
- ・2003年 わかじり団体飾花業務受託
- ・2004年 浜名湖花博参加出展
- ・2006年 40周年記念「新緑の樹200選」制作
- ・2007年 景観整備機軸の指定
- ・2008年 ホームページ開設
- ・2010年 壁面緑化モデル施設展示
- ・2011年 東日本大震災被災地復興支援活動

## 壁面緑化 モデル施設の夏

22年3月に「静岡新聞放送会館」に設置した壁面緑化モデル施設は、2回目の夏を迎えました。



2011年6月14日撮影

今回は、8月の温湿度の観測調査の観測データを出来る限り詳細に紹介します。

なお、植生状況は、施肥の効果もあってプランターの種類や客土による被覆の差はなくおむね9割を超える被覆率ですが、裏側に壁がなく風が吹き

抜ける写真の左側部分は、依然として壁面部の葉の生育は悪く7割に満たない被覆となっています。しかし、景観的には決して貧弱な緑ではなく、美しい環境を創り出しています。

### 顕著な低減効果

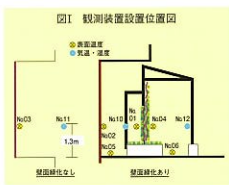
図IIの「8月の日最高気温」は、直射日光が直接当たらないよう設置したNo.10、No.12の観測装置の8月1日から31日のそれぞれ一日の最高気温を図にしたものです。No.10が緑化面の内側ですが、明らかに低減効果が表れています。

図IIIの「表面温度の推移」は、この場所での8月の最高気温となった11日の各表面温度の1時間毎の推移を図にしたものです。(No.01、No.05の観測装置)ここでも温度の低減効果は読み取れますが、外側表面と緑化のないガラス面のピークがずれています。これは、建物庇の端にある緑化面は12時を過ぎるころから日差しが当たりますが、庇の奥にあるガラス面では16時近くまでは

庇が影をつくり太陽の直射は受けないためと考えられます。

### 蒸散作用の変化？

図IVの「温湿度の推移」は、図IIIと同様11日のNo.10、No.12の観測装置の温湿度の時間毎の推移です。低減効果は30℃を超える辺りから顕著となり高いほど効果は大きいと言えます。また、湿度も気温が高まるほど差は大きくなっており、高い気温ほど蒸散作用が活発化していることがわかります。



なお、No.06の観測装置は、センサー部分がずれてプランターの下部に入ってしまったため、表面温度測定ができなかった

め、今回は除きました。

表1は、8月1日から31日までの壁面緑化の効果も期待される10時から18時の間の1時間ごとの温湿度の全データです。観測は24時間30分単位で行っておりませんが、膨大なデータとなり紙面の都合で絞って掲載しました。

### 客観的成果を

来年度は、放射温度計や黒球温度計などによる観測など、低減効果が具体的、客観的に表せないか、観測方法を検討し、より有効な成果を求めたいと考えています。(技術委員会)



図Ⅱ 2011年8月の日最高気温



図Ⅲ 2011年8月11日の表面温度の推移



図Ⅳ 2011年8月11日の温湿度の推移





# 東日本大震災

## 岩手県大槌町は今

川勝知事から感謝状



知事から感謝状が授与

勇んで現地へ向かったものの、凄まじいまでに破壊された街並に強い衝撃を受け、我々には何ができるのか不安になりました。町を離れるときには、お役に立ったのだからかと自問自答し、無力感に包まれました。

感謝状をいただくことができ感謝です。

大槌町では防災や新しい土地利用などの計画を盛り込んだ「大槌町震災復興計画」の作成に取り組まれています。このため、破壊された街並は瓦礫こそ無く、なつたものの時間が止まったかのように、復興のつち音はまだ聞こえないようです。

12月1日、大槌町での活動が静岡県被災地支援活動に貢献したということで、静岡市駿河区の「あざれあ」において、川勝静岡県知事から他の39の団体、企業、病院とともに感謝状をいただきました。

私たちが最初に土砂運び

「大槌保育園」は今どうなっているのでしょうか。



大槌町(静岡県危機管理部提供 2011.8.29撮影)



大槌町(静岡県危機管理部提供 2011.8.29撮影)



大槌町(静岡県危機管理部提供 2011.8.29撮影)

## 大槌町への想い

南松浦造園 松浦伊佐雄



この度の東日本大震災により被災された皆様には心からお見舞い

申し上げますと共に1日も早く復興復旧できまよう願っております。

23年5月17日〜23日、静岡県造園緑化協会のメンバーと共に岩手県大槌町の東日本大震災被災地復興支援活動として参加したときのこと、状況があまりにも悲惨で、町の中心部は津波に破壊された家屋の残骸で埋まっていました。



2011.5.18保育園前の土砂撤去

そして私どもの活動区域が大槌保育園の駐車場付近でした。

活動を終えて帰つてからはあまりの悲しさ故か大槌町が気になりました。少し落ち着いた6月の末頃に、保育園の理事長と園児30名を助けた八木澤園長に面会をお願いしたところ快くご返事くださり、静岡県遠州地方の名産でもあるメロンを子供たちにご馳走したい事をお願いし、お会いしていただけのことになりました。7月31日と8月1日、社員5名と共に2日



2011.7.31保育園に到着

間の強行日程ではありましたがお尋ねしました。

しかし元の保育園は、津波危険区域ということでいまだ使用する許可も下りないとのこと、ここでの再開のめどが立たないため、仮設の保育園は津波のどこかない2キロほど離れた場所にありました。園舎は非常に狭く、64名に2部屋でした。また遊具等は一切無くてたまたまプレハブが建っているだけでした。

しかし、理事長、八木澤園長とともに私たちを温かく迎えてくれ大変ありがたく思いました。



2011.8.3メロンを食べる園児

た。あの津波の悲惨な状況を詳しく聞かせてもらい、なかでも亡くなられた園児の祖母からのお礼の言葉「長い間お世話になりました。ありがとうございます。」に八木澤園長は涙がどとあふれ言葉にならなかつたそうです。また時が経つと助かつた子供たちの中には上つくなつた友達を呼んだり、川の水を怖がって見れなかつたり、あるいは話をつれなくなる子など時間が経つにつれさまざま表情が現れているとのこと、園児たちに大きな影響を及ぼしました。大津波で親を

なくし兄弟を亡くしました友達など大勢の人々を亡くしました。計り知れない大きな心の痛手、これから復興復旧に何十年かかるか分からない状況でこの園児たちが成長し大槌町の復興復旧にかかわっていくだろうと思うとき、今何が必要か、あるいは何ができるだろうか。

子供たちの笑顔を取り戻したい。現地に行き、被災された人たちの後ろからそつと支えること、それが復興復旧につながると思います。大槌保育園には1年ほど一度お尋ねしたい。

八木澤園長には11月の中旬に、4日間、静岡県の浜松市、静岡市に講演に来ると連絡をいただきました。お忙しいなか時間を割いていただき、その後の大槌町の様子を聞くことができました。

八木澤園長は、「大震災で生きることの尊さを学んだ。また普通に会話ができることや普通に人の顔が見れること、それがどれだけ大切な事を知った。最後に今向き合うこととして再生を心ひとつに、支えてください。」

た方々との絆という財産を持つて長く険しい道のりと思うが

歩くしかない。」という言葉を残していただきました。

## 2011.3.11の記憶〈子ども達と過ごした日々〉

大穂保育園園長 八木澤弓美女士



八木澤園長(左側)

れる所でした。

そんな大穂の街は2011年3月11日の東日本大震災で街の52%が津波で壊滅的な被害を受け、震災前15、277人だった人口は、9月30日現在で死者802名、行方不明者26名、家屋の倒壊も、およそ6、000世帯あつたうちの3、717棟が全・半壊しています。

私がここに書き記すことは震災時、子ども達と避難した状況と、その後の様に子ども達と向き合ってきたかという真実です。

大穂保育園がある岩手県上閉伊郡大穂町は、太平洋沿岸に面したりアス式海岸の景観が美しい沿岸北部、沿岸南部のほぼ中心部にある街です。

ひよこりひよたん局のモデルとなった蓬莱島があり、海の幸が豊富で、これからの季節は鮭などのおいしい魚が沢山獲

験をされた方、今でも思い出すだけで前に進めない方が沢山いらっしゃるということを知っていたとき、その上で、今この時、この瞬間を大切に復興への道のりを歩んでいるということ。

明日は自分の身に起こりうることとして考えていただけたいと思います。

この8か月間、子ども達や職員、保護者の方々と様々な環境の中で、色々なことを経験し、その時その時にみんなで話し合い、向き合ってきた記録です。

どんなに辛いことでも逃げずに正面から向き合おうと誓いあつた職員(仲間)との大切な8か月間でもありました。

大穂保育園は平成21年4月に大穂町からの委託を受け町立保育所と統合。子育て支援センターを併設し、定員60名から90名へ変更し、本園舎に新築移転しました。震災時は、0歳児11名・1歳児16名・2歳児17名・3歳児26名・4歳児16名・5歳児27名、計113名の園児をお預かりしていました。

平成23年3月11日。午後2

時46分…。

お昼寝後のパジャマ姿の子ども達、今から着替えをしておやつを食べるぞ！という時間…。小刻みにカタカタと揺れ始め、その揺れはだんだん大きくなつていきました。

子ども達の泣き声が聞こえてきたため園内放送で、地震です。先生の側に集まって下さい。大丈夫怖くないからね。」と放送すると同時に揺れはおさまるところかますます強く、激しく長い時間揺れています。

揺れている最中に各部屋を回つてみると、すでに子ども達は先生に防災頭巾を手渡され、3・4・5歳児は頭にかぶつていました。

園庭を見ると大きく地割れしていてこれはただごとじゃない！と思います。長い揺れ中、園内はすぐには停電となり非常灯に変わりました。

「大津波警報が発令されました。」一度だけ言つた防災無線…。園内放送も機能しない…。

再度、各クラスを回つてみると先生方がすでに子ども達にジャンパーを着せてくれたのですぐに避難することが出来る！と思いました。

避難訓練では一度、園庭に整列し子ども達の人数を確認してからまた更に避難場所へ…という訓練をしていましたが、そんな時間はないと判断し準備できたクラスからすぐに避難するように指示しました。

町の指定の避難場所は風雨をしのぐ建物がなく、独自に地域の方々から聞いて津波避難場所と決めていた高台にあるパイパスLawsonにかけあがりました。

避難訓練も担当者と宮城県沖地震は99.9%の確立で来るから、いつ起きるかわからないよね。」と常に話し合い、職員や子ども達にはシークレットの避難訓練も行つており、そのうちの1回はお昼寝中と想定した訓練も行っていました。

0歳児が11名の赤ちゃん組は保育士が4人。園の最低基準配置は園児3人に保育士1人



ため、そこからまた更に子ども達優先に避難させていたたきました。

「弓道場へ入るとそこで初めて暖かいおにぎりをいただきます。子ども達も何も食べないなかつたので、みんなおおいしろうにおにぎりを食べました。」

とにかく寒かつたので、職員で輪になり、そこに子ども達を足の間にに入れて毛布に包み、できるだけ隙間をあけないように眼ることにしました。

職員はホツカイ口を貼つても貼つても寒く、横になると不安が迫るので、子ども達を足の間に入れたまま座つて眼るのですが、余温と寒さ、子ども達の様子が気になり、ほとんど一睡もできませんでした。

次の日の朝。お昼近くに配られたお弁当、全部で6個。子ども達は30人、6グループに分け少しずつ分けて食べさせました。ポテトチップスやポッキーもいただいたので、それもみんなで輪になって食べさせました。

うちの子ども達もさすがに夜は泣いてしまううらうと覚

悟していましたが、どの子もわがままを言わず先生たちに寄り添つて眠りました。

電気も停電したままでしたので、夜は18時くらいには床につき朝は太陽が昇ると同時に目覚めます。水洗トイレも使えなかつたので、大便の時は新聞紙を敷いて終わつたらビニール袋に入れて段ボールの箱に捨てるというルールも作りましたが、避難者60人ほどの中でのルールはとても大変でした。

3日目になると地域の方々が炊き出しで作つてくれたおにぎりが朝ホカホカの状態で届きました。それも味噌おにぎりでした。

隣町から歩いて帰つてらしたお父さんやお母さんが次々にお迎えに来ました。

「良かったあ……生きてくれたあ……」子ども達の顔を見るや否や泣きながら抱きしめて対面する姿を見て、私たちもホツとしました。

こうして3日目に私たちと一緒に避難した子ども達は全員無事に保護者の元へお返しする

ことが出来ました。

「先生……どうも津波でやられて何もないよ……」そう言った保護者の言葉を聞いて、自分の家族はうらと不安になりました。

今度は自分たちの家族の安全を確かめるため、それぞれ避難所を後にし歩いて我が家へ戻ることにしました。

「何もなし……」と言つていた保護者の一言が自分の目の前に次々と飛び込んできて、茫然と立ち尽くし言葉も失いました。

ライフラインは寸断され、電気、水道、ガス、携帯電話などすべて便利に使つていたものが全く使えない状態……。広い国道が津波が運んできたガレキや泥で交差するの困る難なほどの細い道がためひたすら歩いて自宅へ帰るしかなく、いつになつたら着くんだらうと思ひながら一変してしまつた街をただただ歩きました。

震災から5日目に子ども達の安全確認をする中で、保護者の元へお返しした9名の子ども達が保護者と共に行方不明になつてゐることを知りました。

「お願い！無事でいて……」という思いとは逆に隣町の釜石市の避難所も探しましたが居るはずもなく……。9名のうちの3名は9か月経つた今でも行方がわからない状態です。

遺体の捜索や安置所もまわり、変わり果てた子ども達の再会……。

眠れぬ夜が続き、目を閉じて浮かんでくるのは変わり果てた子どもたちやママの姿。

「何で帰してしまつたらんたらう……」

「自分がもう少し早く状況を確認していれば、一緒に逃げたはず……」

「ずつとずつとこんな思いを抱いていた……」

正直、誰と会話するのもイヤ……。保育園を見るのもイヤ……。若段から職員には「子どもの命を預かつてゐるのだから」とかすごいことを言つてい

る自分が何故助けられなかったのか……。保育士の仕事つて何？？？思い詰めて、自分が変わりに津波にのまれてしまえば良かったのに……。

たのに……。

深い悲しみと絶望に襲われ、もつこの仕事は辞めよう。保育園の再開など無理だと思つていました。

そんな時、震災当直宮古へ出張していた事務員と2週間ぶりに連絡が取れ、震災後バラバラになつてしまつた職員とほぼ3週間ぶりに再会した時のあの安心感は今でも忘れることができせん。

そして、みんなでも悲しみを分け合い、涙した時「私だけが苦しい思いをしてたんじやなかつたんだ」と思えたその瞬間に、「よし！前を向こうー」と思いました。

「先生！いつ保育園やるんですか？」「待つてますね」「命を救つてくれてありがとう……」

こんな保護者さんからの温かい言葉にも沢山支えられました。

それからほじまつた園舎の記

だし、私と事務員が様々な事務整理に追われている間に、職員が涙と寒さに震えながら毎日毎



仮設の園舎前で(2011.8.2)

日重たい泥をかきたず日々…。

プレハブの仮設は3か月待ちと言われていた5月中旬。震災直後から園にボランティアで入ってきていた静岡ボランティア協会の方のご紹介ですぐにプレハブが手に入ることを知り、待っている子ども達のためにと法人の理事も協議を重ね建設に踏み込みました。

金銭的にも緊迫していましたので、現状を聞いた日本ユニセフ協会の全面的な支援のおかげで、3か月ぶりとなる6月1日に仮設のプレハブ園舎で保育再開を果たしました。

子ども達は無邪気なものでした。

はじめは場所が変わったり、震災の影響で落ち着かない様子でしたが、日々の職員との関わりの中で時間をかけてゆっくり3か月分の信頼関係を取り戻して行きました。お外が怖いと言ってお散歩に出ることが困難になってしまったり、お絵描きの時間になると描きたくない…。と言って拒否したりと言う子どもいました。

その時職員と話したことは、「大人でも精神的に回復するのは時間がかかるから、焦らずゆっくり向き合って行こう!」でした。

時間を早めにお迎えに来てもらったり、お散歩の時は事務所所で絵本を読んで待っていることもありました。それでも「保育園楽しい!」と言って登園してくる子ども達の笑顔に何度救われたのでしょうか。

しかし、震災から半年くらい経った9月頃…。子ども達の心にも変化が見られました。特に年長児はしくなりました。お友だちがクラスに4人も居ることをちゃんと理解しながら、実はずっと言葉にも出さずに明るく振舞っていたのです。

10月中旬に親子遠足を計画した時、一人の子が「行かない」と言いました。理由はありませんが、担任から相談を受けみんなで話し合おうということになりました。

すると、その話し合いの中で始めてしくなったお友だちの名前が出はじめ、全員で泣きながら「自分たちが頑張ればお空から応援してくれるんだよ」と言うのです。私と担任は「今この時の子たちと正面から向き合わなくては…。」とじつくり話をしました。

「なんで津波が来たんだらう…。」と一人の女の子が語りだしました。

「そうだね…。なんで今だっただらうかね…。」すると…  
「園長先生がさっ! Tちゃんたちにお家へ帰らなさい!」って言えば良かったじゃん!…心がキュンとなり次々に涙が溢れて来ました。はじめてぶつけて来た本心。

「きつと、大切なものを取りに行つたんだと思う。Hちゃんもお家に大切なものあった?」

「うん…。あつたよ…。」それは何?

「あのね…。七五三の時に綺麗な着物を着て撮った写真…。でも流されちゃった…。」

「そっか…。3歳の時は1回だけだもんね…。でも7歳でも着れるよ。きつと、Tちゃんも」

大切なもの取りに行ったんだね…。」と言った。

「Ｔちゃんに会いた〜い〜い〜！」と言って、私に抱きつき大声でワンワン泣いたのです。「先生も会いたい…。これからこうやって我慢しないで悲しい時や会いたくなった時には話そうね。」と言った。うんどうなずき、今までお互いにかぶつていたベールがはがれていく様な気持ちになりました。

だが、ここまで来れたのは本当に沢山の方々の支えがあったからです。

数えきれないほど全国の方々から励ましのお手紙や支援物資をいただいたり、遠くから足を運びボランティアで園舎の泥だしや清掃作業を繰り返していただきました。

この静岡県造園緑化協会さんとの出会いも大槌保育園にとつてはかけがえのない出会いとなりました。人手では困難なこともわざわざ静岡からトラックと来て下さり、瓦礫移動や



七五三を祝う園児(2011.11.21)

倉庫の移動など震災直後からご尽力いただきました。

失ったものはいっぱいありますが、沢山の方々と出逢い、溢れるほどの優しさを下さり、こうして今ここに居られるのもそんな皆さんのお蔭だと感謝しています。

これからの目指すところは本園舎に戻ることです。

今は危険区域に指定されるか否かの判断待ちですが、職員や沢山のボランティアさんが泥だらけの園舎を何日もかけて綺麗にしてくれた園舎。移転してたった2年しか経っていませんでしたが、子ども達との思い出がいっぱい詰まった園舎に1日でも早く帰りたいと思っています。

「最後まで孫と娘に愛をいっぱい下さってありがとうございます。」

亡くなった園児のお婆ちゃんがかけて下さった言葉でした。

友だちと遊んだり、家族と食事したり、お風呂に入ったたり喧嘩をしたり、今まで当たり前だったことがたった一瞬ですべてを奪っていった東日本大震災…。

「昔、こんな大きな津波が来たんだ」と聞く側だった私たちが今度は語り継いで行く側に立ってしまった責任…。

私たち保育士と言う仕事は今すぐに答えが出る仕事ではありません。正解か不正解かはわかりませんが、この世から旅

立ってしまった6名と、未だ見つからない3名の大切な子どもたちの分まで、今、目の前にいる子どもたちに沢山愛情を注ぎ、成長を見守り、力強くたくましく、大人になってこの大槌に生まれ育つて良かったと思ってもらえる様に、子どもたちの

ために汗を流すことを決めました。

職員や保護者と共に支え合い、助け合いながら復興に向かって一歩一歩前進することが何よりの供養だと心に誓いながら…。

## 造園・緑化へ 就労を支援

高齢者の雇用・就業を支援するため、今年度も高齢者を対象とした造園・緑化に関する技能講習を行いました。

この講習は、厚生労働省の事業で、社団法人静岡県シルバー人材センター連合会が受託し実施するものです。



9月7日 静岡会場

講習は、県内6箇所です。昨年8月29日の静岡会場をスタートし、浜松会場の12月2日まで、それぞれ1箇所7日間の日程で行いました。講師は、高い知識・技術

を有する技術委員会の委員を中心に静岡県造園施工管理技士会などの皆様が担当しました。



10月21日 藤枝会場

条件が加えられたこともあり、6箇所全体の受講者は86人と例年の7割程度ではありませんが、受講者は熱心に座学に聞き入り、また積極的に、熱く実践に取り組みでいただきました。残念ながら造園・緑化業の厳しい現状の中で直ちに就業に結びつくことはできなかったものの、緑の理解者は確実に増えたと感じています。(技術委員会)



10月26日 藤枝会場

## 街の緑を美しく

### 緑の相談所で助言



10月9日富士市緑と花の百貨展にて

街並みや住まいの周りの緑を守り、育て、良質な環境を創り出すため、こうした緑に関わり合いを持つ方々の相談に応じ、助言を毎年行っています。

相談は、県内各地で開催されるイベントなどの中で、地域の団体などと連携、協力して行っています。

今年度は、春のイベントが東日本大震災の関係で自粛されたこともあって、例年より相談所の開設数は減少していますが、多くの方に来ていただきました。相談の内容は、花つきが悪い、剪定の方法、病害虫のことなど

多岐にわたりました。



5月28日の「花と緑のフェスティバル 藤枝」の様子と相談所



### 施設の巡回管理指導

財団法人静岡県グリーンバンクとともに、県内35箇所の公共緑化施設の管理状況調査と管理指導を8月30日から延べ8日間にわたって行いました。今年度は初期の管理が重要なことから、整備後2年目の施設も巡回対象に加わり、必要な管

理の内容や方法などの助言に特に重点をおいて巡回指導に当たりました。



9月9日 浜松市浜北区での管理指導

今年度も厳しい暑さのために、元気の無い樹木が多く見受けられましたが、自然環境条件を差し引いてみると、一部を除き適切な管理により良好に生育していました。



9月6日 藤枝市駅前公園

# みどりのおたより

静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課

## 地域の魅力となる花と緑の創造に向けて

県は、平成22年度に策定した「ふじのくに魅力を高める花と緑のまちづくり計画を踏まえ、花と緑の質の向上と量の充実を図り、地域の魅力となる花と緑づくりに取り組んでおります。この取組には、緑づくり

に携わる皆様が協力し花と緑を面的に拡げていくことが大切です。



①ハンギングバスケットで彩られた可並み(下田市)

写真①は、道沿いに連なる家の壁や公的な空間を飾るハンギングバスケットやプランターなどで飾花した花と緑の空間です。地域の皆様が協力し、通り



②個人の庭と道路が、一体となった可並み(恵庭市)

を統一感のある空間としたことで、来訪者の集まる魅力的な空間となっております。

写真②は、北海道恵庭市の事例で、オープンガーデンが盛んなこのまちには全国から多くの方が訪れます。個人の庭に植栽された樹木や花が道路沿いに一体感のある空間を創出し、うるおいのある町並みとなっています。

県は、事例の様な花と緑の取

組を進めるため、今年度から、財団法人静岡県グリーンバンクと協力し、面的な拡がりをもつ緑化工事や地域の皆様の緑化活動への支援を進めております。

公的な場とその隣接する空間を一体的に花と緑あふれる空間

間とし、魅力あふれるふじのくにづくりを進めてまいりますので、御協力をお願いします。

○問合せ先  
静岡県環境ふれあい課

○電話

〇五四一三二二八四九

## 静岡県交通基盤都市局公園緑地課

### 静岡県富士山こどもの国の

### 花壇づくりへの取組

静岡県富士山こどもの国は、「次代を担うことも達が、雄大な自然の中で、友達や家族と元

子供達に利用され、親しまれています。

気ののびのびと遊ぶことを通じて、生命の貴さや自然の厳しさを学び、夢や冒険心を育むことが出来る場の創造を旨とするを目的に富士山麓に設置された有料公園です。平成11年4

中에서도、プランターを利用した花の植栽では、県立富士特別支援学校の校外学習授業の一環として、生徒と教員とで構成している、働き隊が春と秋の年2回、植栽を行っています。

月から供用を開始しており、現在の供用面積は94・5haです。遊具のほか、宿泊施設・レストラン等もあり、雄大な富士山を眺めながら、のびのびと遊べる場として、ゴールデンウィーク、夏休みを初め、休日には多くの

今年6月24日と10月19日



「働き隊」の植栽活動



にそれぞれ十八名、二十七名の生徒達が参加し、こどもの国の職員の指導のもと植栽を行いました。6月24日は、マリィゴールド80株とベコニア160株、10月19日は、ピオラ200株を、1株づつ心を込めて丁寧に植えられました。生徒達により植えられた

プランターは、こどもの国の中心にある街広場に並べられ、色とりどりの花で来園者を迎えています。

これを機会に、お子様と一緒に「静岡県富士山こどもの国」を利用してはいかがでしょうか。開園日時・料金など詳細については、ホームページで確認して下さい。

(<http://www.kodomo.or.jp>)

## 静岡県経済産業部農林業局みかん園芸課 「花咲くしずおか」運動県民大会を 開催しました

花と緑にあふれた美しい静岡県をつくりを推進する「花咲くしずおか」運動の一環として、平成23年11月30日(水)にグランシップにおいて「花咲くしずおか」運動県民大会を開催しました。

県民大会では、「花咲くしずおか」花いっぱいコンクールの表彰式のほか、最優秀賞受賞者による事例発表、記念講演、フラワーデモンストラクションなど



街広場に並べられたプランター



開会セレモニー

を行い、約300名の方にご参加いただきました。

開会セレモニーのフラワーデモンストラクションでは、静岡市の園芸店「花の店フロリダ」の加賀美三保氏がステージを華やかに飾りつけてくださいました。



会場展示の様子

また、ガーデンデザイナー徳原真人氏による「みんなに愛される花と緑の地域づくり」と題した講演では、全国の事例を紹介していただきながら、地域の花壇づくりにおけるアドバイザーをいただきました。花壇は美しいだけでなく、人と人とのコミュニケーションのきっかけになるとのお話があり、参加者からは「参考になった」「今後の活動の励みになった」といった声が聞

かれ、大変好評でした。

また、会場内では、入賞した花壇の写真や地域ごとの活動を紹介したパネル展示、さらにフラワーアレンジメントの作品展示などを行いました。

来年度の県民大会は平成24年11月19日(月)に開催予定です。「花咲くしずおか」花いっぱいコンクールとあわせて皆様のご参加をお待ちしております。

### 「花咲くしずおか」花いっぱいコンクール最優秀賞一覧

部門	団体名、氏名(敬称略)
学校の部	西伊豆町立賀茂小学校
職場・地域の部(面積200㎡未満)	静岡県立浜松技術専門学校
職場・地域の部(面積200㎡以上)	牧之原市花の会
個人の部(面積20㎡未満)	千賀 和子(浜松市)
個人の部(面積20㎡以上)	鈴木 良枝・勝義(袋井市)

## 技士会だより

### 大自然からの警鐘



静岡県造園施工管理技士会  
会長 望月 敏彦

新年を迎え

ご挨拶申し上げます。  
本年は自然災害のない年を祈っています。

平成に入り平成2年11月17日の雲仙普賢岳の大噴火、平成3年7月12日の北海道南西沖地震、平成7年1月17日の兵庫県南部地震と日本列島を襲った大きな被害をもたらしました。普賢岳は平成3年6月3日の大火砕流の発生で島原半島に大きな被害をもたらしました。

北海道南西沖地震では、特に大津波を伴う奥尻島では山崩れ、大地の断裂大火災も加わっ

てその惨状は目を覆うものがありました。

明石海峡を震源とする兵庫県南部地震は、神戸市及びその周辺都市と淡路島を中心にマグニチュード7.2の直下型地震が襲い耐震性を世界に誇った高速度道路の倒壊や鉄道、上下水道、電気、ガス等の公共施設の崩壊、家屋の倒壊、死者、行方不明者等、甚大な被害をもたらしました。近代都市神戸の壊滅でもありました。

平成23年3月11日の東日本大震災は14時46分発生の岩手県沖の震源により大津波によって死者行方不明者は合わせて一万七千人にもなります。

加えて原子力発電所での放射能の流出で被害額はどうも想像出来ないと思います。我々の静岡県でも地震の被害があり富士、芝川、富士宮地区では屋根から瓦が落ち、プロップ扉が倒れた所も多数ありました。

さらに月末の集中豪雨による山崩れ、その直後の台風15号の強風による樹木の倒木は静岡

県から山梨県にも及びました。大木がこんな簡単に倒れるのかと、信じられないほどに倒れたり、折れたりしました。



富士市岩淵(2011.9.22)

私達にも想定出来ない事が現在、起きています。

急傾斜地のスギ、ヒノキは特にひどく、なぎ倒されています。雨による法面の崩落等、今後の課題が多く残されています。

平成になって私達の近くで起こりうる自然災害はまだ始まったばかりのように思われます。家を流され、職場を失い、帰る事も出来ない被災者は今どのようなに思っているのでしょうか。

防災と復興に対する政府の対応等の遅れが指摘されていますが、人間の営みの小ささ、猛威を振るう自然の不可解さ等私達には計り知れない大自然があざ笑うかのようなすさまじさは、私達への何かの警鐘のように思われます。

塩坂氏(環境アセスメント)が言った言葉を思い出します。「地球誕生の歴史からいって人類の歴史等、除夜の鐘が鳴って終わるまでの短い時間に過ぎない」と。

### 受験対策講習会開催

静岡県造園施工管理技士会

では、国家資格の造園施工管理技士に取得を支援するため、7月9日、10日の両日、受験対策講習会を静岡市葵区の静岡県産業経済会館で開催しました。

今回の講習会には、資格取得を目指して2社から8人が受講し、2日間にわたる造園、緑化の広範囲な技術講義に真剣に聞き入り、受講していただき

ました。試験本番でも、持てる力を充分発揮できることを心から願っています。

この造園施工管理技士の検定試験は、21年度の全国での合格率は1級が8.2%、2級が15%と厳しい数値で難関となっています。こうした中で、この講習会受講者の合格率は、1級が33%、2級が75%と全国平均を上回る合格率を確保しており、これは受講者の努力と講習会の成果ではないかと自覚しています。

こうした狭き門の資格こそ価値は高く、合格した方の意識、意欲は一段と高まると思います。各位の挑戦を期待しています。



## 国土交通大臣顕彰

角皆晋也氏

9月15日、東京都港区のメルパルクホールにおいて優秀施工者国土交通大臣顕彰式が行われました。

式では、田旗造園建設株式会社（掛川市）の角皆晋也（つのがいしん）氏が、優れた技術、施工実績、取組努力が高く評価され国土交通大臣から「建設マスター」として顕彰されました。



## 静岡県知事顕彰

寺尾幸蔵氏

9月15日、静岡市葵区の静岡県産業経済会館において建設産業構造改善推進のついでに開催されました。

席上、株式会社小澤造園（静岡市清水区）の寺尾幸蔵（てらおこうぞう）氏には、優れた技術、施工実績が高く評価され静岡県優秀施工者知事顕彰状が授与されました。



## 防災防静岡県支部長表彰

稲本庄三氏  
杉山幸壽氏

10月13日、静岡市葵区の静岡労働会館において、静岡県建設業労働災害防止大会が開催されました。

席上、木村造園株式会社（東伊豆町）の稲本庄三（いなもとしようぞう）氏並びにトヨタ緑産株式会社（袋井市）の杉山幸壽（すぎやまゆきひさ）氏が、職場での安全活動が高く評価されて表彰されました。



稲本庄三氏



杉山幸壽氏

## お知らせ

### 新年賀詞交歓会と通常総会

平成24年及び25年の新年賀詞交歓会は取りやめ平成24年度通常総会後に懇談会を開催することに替えさせて頂きます。通常総会開催予定は次のとおり。

開催月日 平成24年4月27日（金）

開催会場 グランディエール ブケトーカイ

## 協会日誌

年月日	行事又は会議	年月日	行事又は会議
平成23年		10月 4日	美しいしずおか景観協 景観賞第4回現地調査、最終審査
8月30日	育成管理巡回指導調査（三島市ほか）	7日	第2回理事会
31日	育成管理巡回指導調査（静岡市、富士市ほか）	13日	静岡県建設業労働災害防止大会
9月 5日	美しいしずおか景観協 景観賞第1回現地調査	18日	シニアワーク造園緑化講習会（藤枝会場）開講式
7日	第2回静岡県景観講習会（静岡市）	25日	花・緑タウンフェア実行委員会第2回幹事会
7日	育成管理巡回指導調査（浜松市、島田市ほか）	27日	静岡県造園施工管理技士理事会
8日	美しいしずおか景観協 景観賞第2回現地調査	28日	啓発労働委員会
8日	育成管理巡回指導調査（袋井市ほか）	11月 1日	地域の生活と文化を守る静岡県建設産業の主張2011
9日	育成管理巡回指導調査（浜松市ほか）	2日	第29回静岡県暴力追放・銃器根絶県民大会
12日	シニアワーク造園緑化講習会（掛川会場）開講式	7日	シニアワーク造園緑化講習会（函南会場）開講式
15日	静岡県建設産業構造改善推進のついで	22日	（社）静岡県建設産業団体連合会常任理事会
15日	育成管理巡回指導調査（島田市、牧之原市）	22日	第6回芝草検討委員会
16日	育成管理巡回指導調査（静岡市）	24日	シニアワーク造園緑化講習会（浜松会場）開講式
17日	東日本大震災被災地支援活動総括のついで	25日	第2回花・緑タウンフェア実行委員会
20日	「静岡県建設産業PR活動」第3回打合せ会議	29日	静岡県景観賞表彰式
22日	（社）静岡県緑化推進協会臨時総会	30日	「花咲くしずおか」運動県民大会
26日	経営者若首脳セミナー（リスクアセスメント）	12月 1日	東日本大震災の被災地支援に関する知事感謝贈状贈呈式
27日	美しいしずおか景観協 景観賞第3回現地調査	9日	第3回理事会
27日	シニアワーク造園緑化講習会（富士会場）開講式	16日	（社）静岡県建設産業団体連合会臨時理事会・総会
10月 4日	総務企画委員会	17日	静岡県けんせつ産業「まちづくり2011ふれあいイベント」

## 第4回 静岡県景観賞

優れた景観の形成が行われている地区や活動に贈られる静岡県景観賞(美しいしずおか)景観推進協議会主催)の平成23年度受賞地区が、15件の応募の中から7地区が選定され、11月29日表彰式が行われました。

### 最優秀賞

〇三島市景観重要樹木

「文教町イチョウ並木」

### 優秀賞

〇街の記憶を未来へ継承する

「三島信用金庫本店」

〇森の隠れカフェ「とらや工房」

〇未来へ残したい城ヶ崎海岸の松林

〇井の国「久留女木の棚田」

〇富士山と田園の原風景「柚野の里」

〇太田川のかわせみ湖



最優秀賞 静岡県知事賞  
三島市景観重要樹木「文教町イチョウ並木」



優秀賞 静岡県造園緑化協会賞 太田川のかわせみ湖

篠原審査委員長は、デザインしたものの賞が増えたことが今年度の特徴、景観は地域の誇りとしてこうした応募の増加を期待していますと報告されました。

景観は自然の美しさと人の営みの調和、これを削り、守るといふまさに造園そのもの、ということではないでしょうか。

平成24年1月1日発行  
発行 社団法人 静岡県造園緑化協会 〒420-0031 静岡市葵区興服町2丁目2番地 興服町ビル4F  
TEL 054-253-0586 FAX 054-251-9205 ホームページ <http://www.kenchikunavi.ne.jp/220304/>  
編集 啓発労働委員会 題字 兼松文男氏



(社)静岡県造園緑化協会は、この「ふじのくに森の町内会」の紙を便すことにより、林地に植えられる間伐材を資源として活用し、静岡県の豊かな森林づくりにサポートしています。